

今福線マップの完成から今後の展望

伊藤 清治

1. はじめに

今福線研究分科会は、今年度で3年目の活動となります。今年度は2人加わり総勢11人での活動となりました。昨年度末に今年度の目標として“今福線マップ”の作成を掲げました。そして今年度、対象区間を3分割し、それぞれの区間を3班体制で再度調査し、完全とは言えませんがとりあえず今福線マップが完成しました。この今福線マップを基に地元の「今福線を語る会」で話し合い、今後どのように有効活用するかを検討していくことを考えています。

2. 今年度の調査及び成果の概要

今年度の主な活動内容は次のとおりです。

6月23日（土）…昨年度の成果報告及び今年度の課題及び活動内容について話し合い。

7月14日（土）…浅利寺住職（元国鉄）への聞き取り調査。

9月28日（金）…NHK「しまねっとNEWS 610」の「島根の遺産」で放送される。

11月10日（土）…対象区間（約16km）を3分割し、3班体制で現地踏査。

宿泊 浜田市弥栄町の「ふるさと体験村」 11名

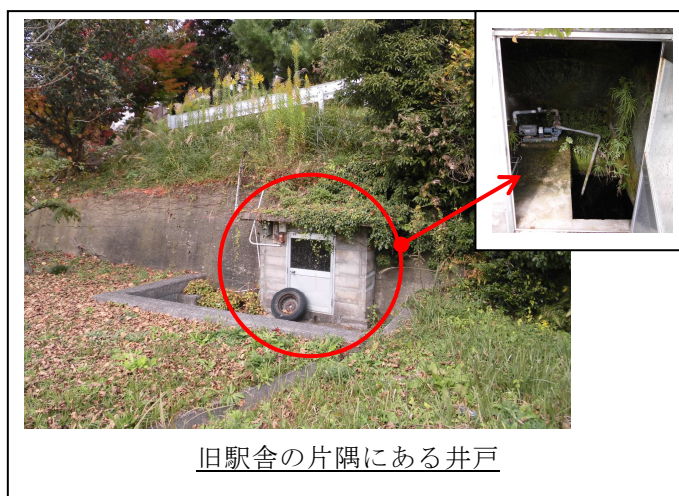
3. 現地踏査による新たな発見

私は最も上流側（今福～佐野区間）の現地調査を担当しました。当班は、班長の木村氏、村上氏、新規加入の永田氏と隣接の「雲城まちづくり委員会」の副会長である井原氏が加わり5名で調査を行いました。

昨年度までは起点の旧今福駅跡地がはっきりしないままであったが、今回加入の永田氏によって旧駅舎と考えられる範囲が概ね把握出来ました。旧駅舎と考えられる部分には旧国鉄の杭（杭に工の記号あり）が設置してあり、その範囲は比較的広範囲にわたっていた。その片隅に井戸の存在も確認した。（現在使用されているかは不明であるが、当時は機関車等に使用する計画ではなかったかと考えられる）



今福線概要図（今福線資料より）

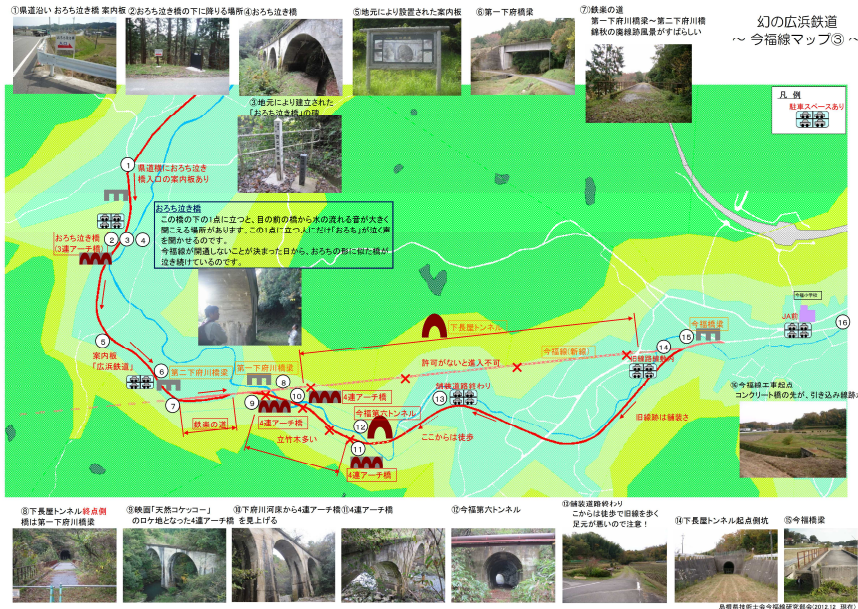


旧駅舎の片隅にある井戸

4. マップの作成

マップの作成は、今回の現地調査結果等を基に各班で作成する必要があったが、各自でそれぞれマップを作成してしまうと收拾がつかなくなると考え、永田氏から送られてきたマップに若干手を加え、最終的な取りまとめは木村氏にお願いした。

【私が作成した今福線マップ】



5. 今後の課題

今後の課題等としては、次のようなことが考えられる。

○今福線マップの改善や更新

今回作成した“今福線マップ”はまだ不十分であり、今後地元の方々の意見等も取込んで、より良いものに改善、更新していく必要があると考えます。

○今福線マップの有効活用及び展開

今回作成した“今福線マップ”をネット上に掲載することが決定していますが、ネット上に掲載しただけでは周知方法としては不十分ではないかと考えます。よって浜田市や県の観光協会等と連携を図り、その存在をアピールする必要があると考えます。

○地域への負担軽減

今回の今福線マップの作成を機に、今福線を訪れる観光客等が多くなるのが考えられる(?)、また期待したいが、たくさんの方が来られた時、駐車場やトイレ、またゴミの発生及び処理の対応等で地元への負担が生じることが懸念される。よって行政等と連携を図りながら整備する必要があると考えます。

5. おわりに

今回の今福線マップの完成に伴い、鉄道遺構である今福線の地域資源としての利用方法等の下地ができたのではないかと考えております。今後は、この今福線マップを基に地元の「今福線を語る会」で話し合い、前述の課題等を解決しながら、地域と連携し、鉄道遺構である今福線を含めた地域の発展に繋がるような提案ができれば良いと考えております。

—以上—

今福線遺構マップ作成に向けて

木村 賢一

1. はじめに

今福線遺構マップ作成を今年度の目標に掲げた今福線研究分科会の3年目は、旧線全線の現地調査および、今福線に詳しい方からの聞き取り調査等を行いました。以下に、今年度の活動と成果について詳述します。

2. 泉氏さんからの聞き取り調査(平成24年7月14日)

石見ケーブルテレビで平成23年7月放送の「謎の建造物を探れ！幻の鉄道“広浜線”」において今福線が紹介されました。放送後に石見ケーブルテレビを訪問した縁で、今福線に詳しい泉氏のお話を聞かせていただく機会に恵まれました。

今福線が記載された図書・DVD等の紹介や、浜田高校付近に存在した新線高佐橋梁が撤去された時期(H10.3)など有益な情報を得ることができました。

また、鉄道全般に詳しい泉氏から山陰線の時刻表や当時の鉄道状況など貴重なお話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

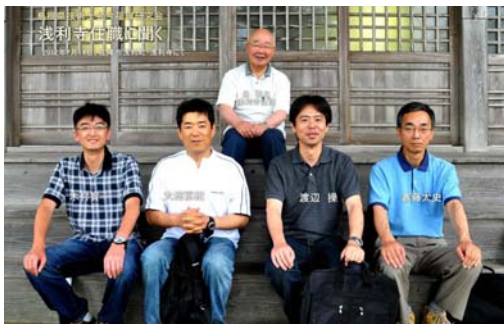


写真.1 聞き取り調査集合写真



写真.2 聞き取り調査状況

3. 現地調査(平成24年11月10日)

今年度の調査は旧線を①下府駅～今福第1トンネル、②今福第1トンネル～佐野駅、③佐野駅～今福駅の3班に分け、現地調査を行いました。

このうち、③佐野駅～今福駅区間の調査は島根県技術士会4名の他に、浜田市金城町の「雲城まちづくり委員会」の井原氏を含めた5名で、昨年度未調査区間である今福第6トンネル～今福駅周辺を中心に調査を行いました。

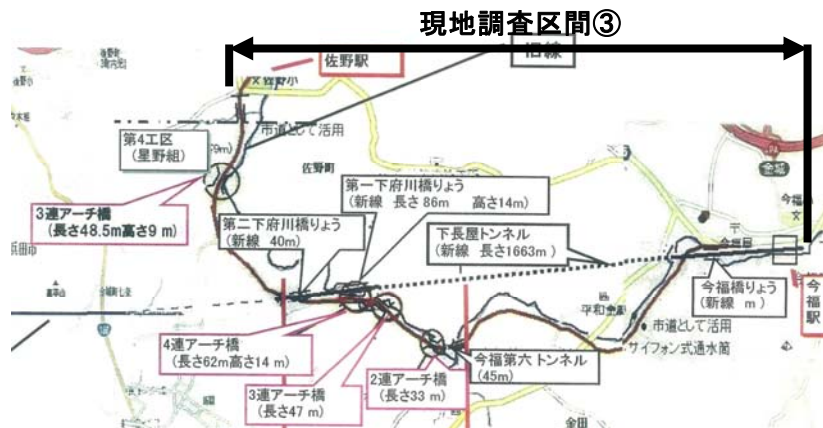


図.1 現地調査区間

今福線の工事起点および、JAいわみ中央金城支所周辺においてコンクリート擁壁や境界プレート等を確認できたことが収穫でした。



写真.3 今福線工事起点



写真.4 コンクリート擁壁と境界プレート

4. 地元の声の反映

11月の現地調査を基に作成した今福線遺構マップに、昨年度「今福線を語る会」と命名し交流した佐野町老人会等の地元の声を反映させるため、佐野町老人会の石本会長宅を訪問しました。

現在、石本会長にお願いし地元の意見を募っている最中です。



写真.5 石本宅への訪問

5. 今年度の成果

(1) 今福線遺構マップ(全4枚構成)



図.2 今福線遺構マップ4枚中のうち4枚目(佐野駅～今福駅)

(2) おろち泣き橋の案内看板

地元により、今年新たに「おろち泣き橋」の案内看板が3箇所設置されました。1つ目は県道との入り口付近、2つ目は「おろち泣き橋」の50m手前、3つ目は川の音が反響して橋梁内を大量の水が流れてくるような「おろちの泣き声」が聞こえるポイント前です。



写真.6 入り口案内



写真.7 50m手前



写真.8 おろち泣き声のポイント前

(3) TV放送による今福線の紹介

NHKで平成24年9月28日放送の「しまねっとNEWS610」において、島根の遺産として今福線が取り上げられ、島根県技術士会今福線研究分科会の活動が紹介されました。

6. おわりに

今年度作成した今福線遺構マップは完成型ではありません。「4. 地元の声の反映」で詳述したとおり、地元の声を反映していません。来年度は地元の声に加え、島根県技術士会HPに掲載するなど、様々な意見を募ることで仕上げていきたいと考えています。

地元の皆さんによる「おろち泣き橋」の案内看板が設置されるなどの成果を上げる一方、今福線の認知不足によるものなのか残念な事がありました。

土木学会の「選奨土木遺産」に認定された今福線コンクリートアーチ橋群において、銘板がある4連アーチ橋の護岸ブロックにコンクリートブロック積擁壁が施工されていました。今福線の魅力である周辺の風景とマッチした美しい眺望を台無しにするものです。



写真.9 4連アーチ橋(以前)



写真.10 4連アーチ橋(現在)

今福線の認知度が高ければ、防げたかもしれない考えると残念です。このような事態を繰り返さないため、今福線の認知度向上に寄与すべく今福線遺構マップの完成を目指し、引き続き活動したいと考えます。

—以上—